
第 108 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CVI Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時:2017 年 6 月 3 日(土)10:30 - 12:30

場所:関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1004 教室

担当者:小川雅美

「GIDE(2015)『スペイン語学習のめやす』を利用して所要時間 20 分の教案を作る」

テーマ 10: 気候と天候 (『スペイン語学習のめやす』 pp.58-59, pp.123-124)

教案の目標: スペイン語初級学習者がいろいろな場所の気候や天候について表現できるようになる

* Fecha y hora: sábado, 3 de junio de 2017, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1004

* Encargada: Masami Ogawa

* “Elaboración de unidades didácticas de aproximadamente 20 minutos utilizando

"Un modelo de contenidos para un modelo de actuación"(GIDE 2015):

Tema 10: El clima y la meteorología (“Un modelo de contenidos”: pp.58-59, pp.123-124) Meta del plan didáctico: Saber expresar el clima y los fenómenos meteorológicos de diferentes lugares

【出席者数】8 名 (担当者、世話役を含む)

【ワークショップの流れ】

『スペイン語学習のめやす』の趣旨を確認し、同書の提示する枠組みに教案の内容を位置づけた。次に、スライドを主な教材として模擬授業 (20 分を超える) を行い、出席者の皆さんには生徒になってペアで活動をしてもらった。以上の途中および最後に出席者からコメントをいただいた。

【発表の内容】

別ファイルを参照。

【議論】

- 『学習のめやす』p.93 の「学生が単なる知識の受け手ではなく生涯にわたって自律した学習者になるようにするという最終目的」について、担当者としては、やや意味がわかりにくいと指摘した。これについては複数の参加者から、『めやす』の内容を支持しつつ、「スペイン語学習に限定したものではない」というコメントをいただいた。当日の議論はそこまでであったが、このことに関して、次のことを付記する。

外国語教授法の議論で「自律した学習者」という概念は以前から存在するし、現場教師としてそういうことを願って授業をしている。ただ、外国語教育に限ったことではないし、必修科目として第2外国語を学ばせているという側面もあるので、より慎重で深い省察が必要ではないだろうか。（そこには必ず、「なぜスペイン語（第2外国語）を学生が学ばなければならないのか」という問題がつきまとう。自律した学習者を育成するために第2外国語という授業が存在する、とは考えにくい。）

- Yahooの天気予報については、その天気予報サイトへのリンクだけだと、その中のどこを参照してスペイン語の文を作ればいいのかかわりにくいので、文を作るのにすぐ使えるような天気の提示方法になっているサイトがよい、というアドバイスをいただいた。確かに、活動が速やかにできるためのよりよいサイトを提示するようにしたいと思う。
- 天気の表現は初級スペイン語の内容であまり魅力的と考えたことはなかったが、インターネットで世界のリアルタイムの天気を見たり各国のローカルな天気予報のビデオを見ることは興味深い、という感想をいただいた。この活動は、インターネットを教室で有効活用できる例だと考える。
- スペイン語の表現については、リアルに天気について話し合うには、天気予報の場合は未来形（ネイティブの先生によると「ir a+不定詞」は予報の場合ふさわしくない）を使用すべきであり、また、Llueve.やNieva.は *Está nublado.* とアスペクトが本来異なるので「現在の天気」を説明するにはやや難がある。この担当者の感じた困難については、直説法現在形（現在進行形は未習とする）しか習っていない段階では、そこまでリアルにせずとも、とりあえず現在形で天気の説明ができればよいだろう、というところでおおむね見解が一致した。

【補足】

自然環境がそこに住む人の文化、社会、歴史を育むとすれば、気候や気象現象を通して学べることはきっと多いと思う。また、旅行をする際に天気についての情報は必須である。さらに、事実を描写することは意味に満ちた活動である。このワークショップをきっかけに、自分の授業でもう少しこのテーマを取り入れるようにしたい。

同時に、初級文法で教えられている天気の表現が、アスペクトがばらばらであったり、「今日は快適だ」「今日は暖かい」のような表現が案外なかったり、言語学的に調べ直す価値があると感じた。